2017年4月13日付
建設通信新聞　第12面(最終面)

地に足付けて前進

土屋 尚子

JABMEE

設備女子からのメッセージ⑲

ポンプ・ファンの世界に携わって20年。私は仕事や家庭で大切にしていることがある。まず人の意見を一度ゴクリと呑（の）み込んでみる。そして噛（か）み締めて、自分を信じて事を決める。その決断の裏に何があり、自分の考えに何が足りないのか考えてみる。

次に大げさなほど、感謝の意を表す。特に家族には欠かさない。そして[illegible]ほしいと常に願っている。

実地試験では何が問われるのか

最大の結果を出す勉強法

施工管理技士　合格のポイント⑤

今回より、１級・２級施工管理技術検定の２次試験である実地試験について、２回に分けて解説していく。初めて施工管理技術検定を受験する方は、実地試験がどのようなものかイメージをつかんでもらいたい。また、受験経験がある方にも役立つ情報なので、ご一読いただきたい。

■実地試験は何を問う？

学科試験が知識の理解度を問う試験だとすれば、実地試験は必要な学識・応用能力を問う試験である。学科試験の問題は四肢択一式（マークシート式）であり、解けなくても解答さえすれば運よく正解になることもある。

しかし、実地試験は記述式のため、偶然正解するということはほぼない。従って、学科試験では広い知識量が、実地試験では応用力が問われることを認識し、それぞれに合った対策が必要だ。内容は施工経験記述と施工管理法に関する記述の大きく２つに分類することができる。

例）１級土木施工管理技術検定（実地試験）試験内容

試験区分	試験科目	試験基準
実地試験	施工管理法	1. 土質試験及び土木材料の強度等の試験を正確に行うことができ、かつ、その試験の結果に基づいて工事の目的物に所要の強度を得る等のために必要な措置を行うことができる高度の応用能力を有すること。 2. 設計図書に基づいて工事現場における施工計画を実施することができる高度の応用能力を有すること。

1級土木施工管理技術検定 受験の手引より抜粋

実務経験と施工管理能力が重要

■施工経験記述の重要性

ここで初めて施工経験記述という問題を耳にした方も多いのではないか。この経験記述は施工管理技術検定を象徴する特殊な問題であり、施工経験記述の攻略なくして実地試験の合格はないと言っても過言ではない。

また、公表はされていないが経験記述で一定以上得点をしなければ、その他の記述は採点すらされないという考えが一般的である。

では施工経験記述とは具体的にどういった問題か。過去の工事現場における自身の経験を記述させ、実務経験の有無と施工管理能力を判定するものである。そして、受験者が「施工管理技術者」としてふさわしく、事象を正確に捉える能力、適切な処置を採用する管理能力、またそれらを正確に伝えることのできる記述能力を持っているかどうかを判断する。

■業務報告と同じ意識で

実際の経験に基づいた記述が要求されるので、事実と相違していると判断された場合には減点もしくは最悪の場合、不合格となる。

また、答案は一般論ではなく自身が実際に現場で経験した工事名、発注者名、工事場所などの記入欄があり、事前の対策なしに合格基準の答案を作成することは極めて難しい。

従って、事前に出題が予測される課題に沿った答案を複数用意する必要がある。ＣＩＣの講習会に参加する受験生も、その特殊性から独学では不安のため参加したという受験生が多い。参考書だけでは不安と感じる方は講習会の参加も一つの手だ。

なお、経験記述の作成に関しては試験問題に答えるのではなく、業務上の報告書を書くつもりで対策に臨んだ方が書きやすいだろう。例えば取引先の企業に報告書の提出または営業の提案資料を作成する場合、大変でもより良い資料をつくろうとするはずだ。そのつもりで施工経験記述も作成すれば、必ず合格レベルの答案ができるはずだ。（つづく）

（ＣＩＣ日本建設情報センター）